

事例名

古英語(1000年前の英語)で俳句を創作する

校種・学年	高等学校・定時制3年		
教科・科目・単元・題材	英語科・古英語による俳句		
学校名<任意>	京都府立朱雀高等学校 定時制課程	事例報告者氏名<任意>	水野 良輔
機能名(アプリ名)	① ロイロノート ② 古英語調査(Old English Translator – Free AI Historical English) ③ イラスト作成(Gemini) ④ QR音声作成(音声QRコード作成ツール)		

ICT活用のポイント

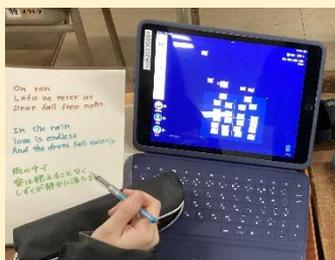
まず、生徒が初めて触れる古英語につき、以下の「活用場面」に示したロイロノートの古英語単語カードによる分類作業で、構造的理解を目指した。

次に、「古英語での俳句作成」、「俳句に合うイラスト作り」では、AIを、全てお膳立てしてくれるツールではなく、生徒たちと共に育っていくパートナーだという意識を持たせた。具体的には、AIが提案した俳句やイラストについて、もっと自らの思いを適切に表現する方法はないか、AIと対話を重ね、表現の推敲に努めた。

最後に、「楽しむ」ということを重視した。作成過程に加え、音声におこしたことは、まさに生徒の知的好奇心に訴えるためである。

活用場面

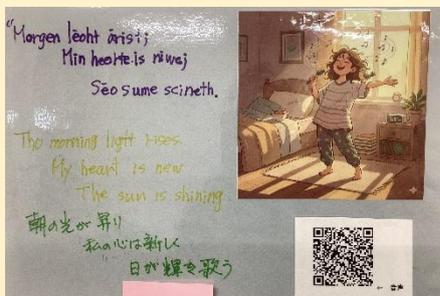
① 教員が準備した古英語単語集(20個)をロイロノートで見ながら、生徒が古英語の基礎を学ぶ。A)古英語と現代英語の共通点と違い、B)提示された20個の単語を、「自然表現」と「感情表現」に分ける、これらを生徒主体で行う。その後、発見した点について、生徒が日本語を主に、英語も交えて発表する。



② 教員が、生徒の気づきを基に、古英語と現代英語の共通点や違いについて、簡単に説明を行う。

③ 教員が指定した、俳句の10個のテーマ(「春のよろこび」、「星と祈り」など)から、生徒がテーマを一つ選択し、次のサイトを参考にしながら、俳句を作成する。俳句には、「自然」「感情」両方の表現を入れることとした。なお、このサイトには、AIによる相談・対話機能が付されている。

(サイト：<https://oldenglishtranslators.com/> “Old English Translator – Free AI Historical English”)



④ 俳句を表現するイラストを、Geminiと対話しながら、作成する。

⑤ 作った俳句の予想音声のQRコードを作成する。

(サイト：<https://www.jotform.com/ja/qr-code-generator/audio/> 「音声QRコード作成ツール」)

⑥ 文化祭掲示物として、生徒・保護者・教員等に見ていただく機会を設けた。

授業者のコメント・児童生徒の主な反応等

1000 年前の英語で俳句を作成することは、文法や語彙面の難解さから、決して容易なことではない。一方で、現在学んでいる現代英語との相違点を発見することは、生徒自身にとって、興味深い学びであったように感じる。実際、「自分たちの創作した古英語による俳句を、音声面で知り、現代英語との違いを知りたい」という疑問に至ったのは、生徒自身である。デジタル技術の力を借りながら、難解な言語を使用して俳句を作るという営みが、生徒に自信を持たせ、今後の英語学習に一層の動機を与えたと考えている。